

新県立大学の総合教育科目について（案）

1 基本的な考え方

長野の美しい自然の中で、地域の未来社会に貢献できる先導者の育成、ならびに世界に通用する幅広い視野と豊かな人間性と大きな夢をもった心身ともに健康な若者の育成を目指す。そのために、地域にもグローバル社会にも深い関心を持ち、優れた思考力、判断力、創造力、発信力を身につけ、優しく逞しい人間力を備えた学生を輩出する教育を行う。

本大学では、こうした新たな時代の生きた教養を身につけるにふさわしい授業科目を用意し、学生に学ぶ喜びを体験させ、知識の獲得と実践的能力の修得の両面から、インタラクティブで親身な授業を行うものである。

2 特色

（1）教養教育の充実

変化の激しい現代社会においては、専門的な知識やスキルが要求されると同時に、時代の要請と対話しながらそれを適切に拡大、深化させることが求められる。教養教育は、これを可能にする柔軟な思考、「引き出し」の多さ、アンテナの広さ、多様な価値観を受け入れることのできる寛容さ、自己や世界を大局的な視点から見つめることのできる懐の深さ、他者と協働する協調性を形成する。また、ストレスに晒されやすい現代世界を見すえつつ、生涯にわたり精神と身体を健康に維持し、人間的な成熟をめざすための最初のきっかけを提供する。

人文・社会・自然系の多様な科目を設置し、人間、社会、自然への深い関心と理解を培う。授業の形式としては、教員からの一方通行にならないように、学生との意見交換やディスカッション等を挟み、広がりや活気のある授業にする。

人間の本質を見極めようとする多彩な人文系科目では、グローバル化しつつある世界に生きる人間の多様なあり方、世界観、価値観を学び、現代の社会や人間が抱える問題を、根本から見直すことのできる柔軟で骨太なマインドを養う。

社会系、自然・情報系科目により、現在私たちが生きている社会、環境、身体を学問的に捉える基礎的視座を学び、専門課程に進むための第一ステップとする。

基盤科目のうち特に健康と運動関連科目では、生涯にわたるスポーツ習慣を形成・定着させる視点に立って、身体観、運動観、健康観の形成の基礎を養う。

（2）外国語教育

集中的な英語教育と、選択肢豊かな諸外国語教育により、グローバルな舞台で活躍し、ローカルな多文化社会に貢献する、複眼的視野をもった若者を育成する。

英語教育：1年次から2年次を中心に、集中的に英語運用能力と英語コミュニケーション能力を養い、2年次には「海外プログラム」において実際に国際舞台で英語を使う経験を積むことによって、グローバル化の時代にふさわしい、実践的で世界に通用する英語力を養成する。

諸外国語教育：英語以外の外国語科目はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語を設

置し、英語以外にも世界で広く使用されている他言語の世界へと扉を開く。留学生向けには、外国語としての日本語を設置。日本語による学習・研究、日本での生活の語学的な基礎固めを保証し、多様な文化的背景をもつ学生が本学の学生生活に馴染むための第一歩とする。

(3) グローバル教養ゼミ

専門課程に進んだ後も、希望者には人文諸学の知識を深める選択肢として「グローバル教養ゼミ」を設置。みずからの専門分野とは異なる学問を副専攻的に学ぶことで、専門性を有しながらも、深い人間理解に裏付けられた複眼的で大局的な視野を備えた多様な人材を全学的に輩出するプラットフォームとする。日本への理解関心を深めたい留学生には、日本文化に関するゼミが受け皿となる。

(4) 基盤科目

① 発信力セミナー

発信力セミナー（必修）では、主体的に学び、議論し、発信する力を15名の少人数クラスで身につける。各クラスごとにテーマを設定し、母語である日本語を話したり書いたりする力を高めるために、毎回短い作文を書いたり、パワーポイントを使って発表をしたり、意見交換したりする、実践的で身につく演習授業である。

② デザイン思考

社会の様々な現場における、協働による課題の発見と解決の方法を学ぶ。問題を抱える現場での共感・観察にはじまり、問題・課題の同定、解決のためのアイデア創出、解決策の雛形の作成と検証といった、一連のプロセスによって問題解決とイノベーションを目指すための思考法と、行政、企業、地域社会といった異なったセクターを繋いで協働してゆくスキルを学習する。

③ グローバルスタディーズ

世界の文化と社会（必修）では、まず、世界の中の日本、日本の中の世界をテーマに、日本の文化や社会をグローバルな観点から見つめ直す。次いで、二年次の留学先の地域を含む様々な世界の文化と社会を学んでゆく。特定の国と国の関係ではなく地球規模の鳥瞰的な視点で、文化や社会を捉える仕方を学んでゆく。

④ 情報教育

情報およびコンピュータに関する基本的な仕組みを理解し、それらを自由自在に活用できる能力、具体的には情報の収集、処理、保存、活用に必要なスキルと知識を身につける。情報リテラシー演習（必修）および情報リテラシー応用演習では文書作成や表計算、プレゼンテーションなど大学生や社会人として必要なコンピュータリテラシーを身につけ、情報化社会に必要な情報倫理を学ぶ。情報基礎ではコンピュータ、ネットワークの基本的な仕組みを理解するための知識、およびネットワークを安全に利用するためのセキュリティを学ぶ。プログラミング基礎演習では、Webサイトの作成、アルゴリズムを学ぶことによ

り、情報の発信や表現に関わるより発展的な内容を学習する。

⑤ 信州学

長野県には、里山を初めとする日本人の豊かな知恵が息づく自然と共生した暮らし、世界の最先端を行くものづくりなどの産業、長い歴史に育まれた伝統・文化など数多くの資産がある。

このような長野県の魅力を学び、学生自らが拠って立つ地域についての理解や愛着を高めながら社会貢献のマインドを養成するため、現場の観察、地元の人とのコミュニケーションなどを行いながら、そこで出会った課題を探求し、レポートにまとめる。